



城北小だより

7月号

令和7年6月30日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数680名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

友達との関わりを学ぶ

校長 池田 誠

2年生が育てているミニトマトはすくすくと成長し、実が赤くなり収穫できるようになってきました。収穫したミニトマトを、私に見せてくれる児童が日に日に増えています。

1学期も早いもので、来週は7月を迎えます。入学式の日から小学校生活を始めた1年生は、楽しそうに生活を送りながら城北小学校の一員として、心身ともに成長している姿が見られます。また、2年生から6年生の児童も、友達と関わりながら学習に励みつつ、当番・係活動や委員会活動などを通して責任感を高めたり、休み時間における遊びを通して友達との親交を深めたりしています。

保護者の皆様には、学校で成長している姿や頑張っている様子を個人面談においてお伝えさせていただいたり、今後のさらなる成長に向けてご相談させていただいたりしました。今後も児童が安心して生活を送り、のびやかに成長できるように一緒になって教育活動を進めていきたいと考えておりますので、どうぞお願いいたします。

さて、児童は、学級や学年のたくさんの友達と関わります。楽しいことばかりだとよいのですが、うまくいかないことやもめごとになることは、決して特別なことではありません。お子さんが家に帰ってきて「いやなことがあった。」「(口) けんかをした。」と話すこともあると思います。そのような話があると心配になる気持ちも十分に分かります。

しかし、見方を変えると「いやなことがあった。」「(口) けんかをした。」などのもめごとは、良好な人間関係を築く力を身に付けていく上での大切な機会だと考えることもできます。様々な場面が想定されますが、「いやなことがあった。」という場合は、自分の考えがうまく伝わらなかったり、意見が通らなかったりして、不満を抱えたまま解決されていないことが多いと思います。その場合、「距離をとる」「その子とあまり関わらない」ということもできます。大人の社会では時に必要なことですが、安易にそれを選ばせることは思慮したいと考えています。それは、自分が関われる世界を狭めてしまうことにもつながるからです。また、「(口) けんかをした。」「【暴言や暴力が加わることは問題であり、暴言や暴力は絶対にあってはならないことだという厳しい指導は必要です。】」という場合は、互いの意見や感情がぶつかり合う中で起こるものです。

どちらも気持ちが落ち着いてから、一人ひとりに状況や思いを聞いていくと、「相手の思いは分かっていた。」「そこまで考えていなかった」などと話すことが多くあります。さらに、「どうすればよかった。」と尋ねると、解決に向けた自分の考えを言える児童も多くいます。教員がその考えを認めていくことで、児童は自信と解決力を身に付けていけると考えています。

私が担任をしていた時、「昨日、友達といやなことがあった」と言う理由の欠席連絡を受けたことがありました。その後本人と話をすることで、「話し合って解決しないか」と登校を促しました。それぞれから話を聞いた上で、顔を合わせることにしました。私も一緒に話し合いに入り、お互いの気持ちを伝え合い、折り合いを付け、わだかまりもなくなり、次の日から以前と同じように生活できるようになりました。

児童は、集団生活を送る中で、友達と意見が合わなかったとき、自分の気持ちをどう伝え、どうすれば相手と向き合って、解決できるのかを考える経験をし、人と関わりながら生きていく力を育む、かけがえのない学びをしています。そのため、私たち教職員は、もめごとが起きたときこそ「成長のチャンス」と考え、友達と関わり合いながら安心して成長できるように指導と支援を行っていきます。

間もなく小暑を迎えます。梅雨明けが近付き、暑さが本格的になり、蝉の鳴き声が聞こえる頃です。保護者や地域の皆様、体調にくれぐれもお気を付けいただき、ご壮健にてお過ごしください。

☆☆ 城北小学校の50年☆☆ 【プール完成】

昭和51年5月13日(木)に着工し、約2か月後の7月10日(土)に、横13m×縦25mの立派なプールが完成しました。そして、7月17日(土)に、盛大にプール開きが行われました。その後、フェンスなどの工事を行い、現在に至ります。

写真には、プール開き時に設けられた、水泳指導の安全を祈願した祭壇も写っています。《学校沿革史並びに当時の記録写真集より》

